

猪名川町議会 清流会 政務調査研究視察報告書

1. 調査研究年月日 平成18年7月24日(月)～25日(火)
2. 調査研究者 町議会清流会 関口功男 福井昌司 西谷八郎治 尾川悦子
3. 調査研究目的 公共改革プログラム 顔づくりプロジェクト 小規模多機能ホーム運営
4. 調査研究先 埼玉県宮代町役場 きらり姫宮小規模多機能ホーム



宮代町議会 議長 山下 明二郎氏(奥左)



木造建築の役場

(1) 公共改革プログラム

説明者 総務政策課 公共改革担当
岡村・吉永氏

資料

わたしたちの予算書 冊子

公共改革プログラム 2005 冊子

- ・策定と進捗状況
- ・平成17年度工程進捗状況報告
- ・工程進捗表

広報紙「みやしろ」7月号

公共改革の財政効果 約9千万円

平成17年度公共改革の進行率 約80%

全工程完了 16% 計画どおり進行中 61%

▼改革項目策定の経緯

公共改革市民検討委員会が提言

経営戦略会議が改革案作成

パブリックコメントを経て完成

職員組織改革

職員数を10年後に200人体制に(H17 225人)

財政構造改革 指定管理者制度による民間移行

市民参加協働 改革ウォッチャー制度

考 察

このままでは、赤字になるという判断においてスタートした「公共改革プログラム」は、平成17年市民参加のもと進められてきた。町議会全員協議会へ公共改革市民検討委員会検討経過を報告、のべ50回をこえる会議を経て提言をまとめた。改革の進捗状況を市民が行う改革ウォッチャーを公募し、タウンミーティングも開催しているが、担当者・議長の話ではまだまだ住民に届いていないということである。

「わかりやすい予算書」また住民への説明を「広報紙みやしろ」で特集するなど、説明に関してかなり重点をおいている。住民投票において「合併しない」と決定したために当初合併を想定して立てた新庁舎には議場が設けられていなかった。1階にはキッズ・インターネット・印刷コーナーなど市民が集えるスペースが多い。隣接する「進修館」の小ホールが議場であり、議会のない時には椅子などを片づけて市民に開放しているため、議会と市民の関係は近いという話であった。議会も議会改革検討2005を立ち上げ、共に進めているということであり、市民・議会・職員がひとつになって取り組む「公共改革」であると感じた。



39名の市民と若手職員が動き出した。

まっけていても人はあつまらない。
リーフレットを持って駅前に出かけた職員。
20歳代の若者が予想以上に参加してくれた。

—大場リーダーの思いを紹介—

「道なき道の先にあるもの」

厳しい財政状況の中、こういった事業が展開できるのか。まだ不透明です。でもこのプロジェクトを通して、どうしてもこれだけは残したいと思っているものがあります。

それは「信頼」という言葉の上に築き上げられた、行政と町民の皆さんとの関係です。

それは、将来に続くまちづくりを見据えたとき何事にも代え難いもの—大切なもの—だと思います。

道なき道の先にあるもの……。それは確かに今は十分に見えませんが、まばゆい日差しの下で子どもたちが遊び、多くの人を訪れ、そして町民が様々な活動を展開している……。そんな光景を今、進む道の向こうに思い浮かべています。

平成18年7月3日

みやしろの顔プロジェクトチームリーダー
大場崇明

考 察

職員のやる気 熱意 がまちを動かしていく。
「人」が活かせる職場づくり、まちづくりを展開して行くことが、これからの自治体には必要だ。

(2) 顔づくりプロジェクト

説明者 大場氏 / 産業建設課 (リーダー)

田中氏 / 総務政策課

資 料 みやしろ顔づくりプロジェクトについて
サポーター通信 (創刊号)

1. 職員のプロジェクトチームの設置

○チーム構成 20歳、30歳代の職員7名で組織。

○活動期間 平成20年末まで

メンバーは町長の指名した職員。

○通常業務にプラスして業務を行うためメンバーの業務量は増加している現状はある。

○リーダーには課長の権限が付与され、組織上の室長課長という上司はいない。

- ・ 意思決定過程の簡素化
- ・ 発生する課題への素早い対処が可能

2. 顔づくりプロジェクトの基本的考え

宮代町は海・山、旧所・名跡など観光資源になるものがほとんどない。

磨けば光る資源を発見し、それをより魅力的にしていけることが顔づくりであるとの考え方のもと取り組みを進めた。

都圏のグリーンフロントとして農のある環境

町の風景を構成する個性的な建築物等

当町の市民 (市民参加の蓄積を生かす)

顔づくりはハード整備だけでなく、「知恵」と「人」すなわち「市民力」。

「市民がもっとこの町を好きになる」その実践の場。

3. みやしろの顔プロデュース委員会の設置

「プロデュース」は「参加」するだけでなく「顔づくりを演出し、自らが考え、実践していく」という主体的な参加—すなわち「参画」—を意味する。

(委員会の組織)

- ・ 会員はすべて公募の市民、人数制限はなし。
- ・ 出入り自由な委員会
- ・ 世話人会を設置
- ・ 顔づくりイベント企画部会の設置

4. 顔づくりサポーター倶楽部

- ・ 毎月サポーター通信を郵送
- ・ 誰でも登録が可能

5. 当面の活動 旧庁舎跡地の整備計画の具体化



2階 知的障害者グループホーム食堂にて

事業概要

- ・ ディサービス（通所介護） 10名
- ・ グループホーム（認知症・高齢者対応）18名
- ・ グループホーム（知的障害者対応）5名
- ・ あいあい（ケアプラン作成）
- ・ ヘルパーステーションあいあい（訪問介護）

定員

（３）きらり姫宮小規模多機能ホーム

説明者 理事長 井上恵美さん

事務局長 安部晨氏

町健康福祉課 折原課長

資料 きらり姫宮パンフレット（冊子）

リーフレット 新聞記事

きらりびと通信 No.27、28



安心のサポート体制

協力医療機関

○公設宮代福祉医療センター「六花」

○医療法人「今井病院」

○医療法人社団誠和会「姫宮歯科医院」

知的障害者地域生活援助

バックアップ施設

○社会福祉法人 啓和会

考察

理事長の井上恵美さんは1997年から5年間、町の福祉課長とボランティア活動「さわやか福祉財団」の会員の両立をされていた。2000年NPO法人を結成し、03年に役場を退社された。

きらり姫宮は広い駐車場や農園を備え、グループホームの居間兼食堂には日本間が付いてゆったりしている。土地と建物を提供したのは収入役であった島村さん。農地の再利用を考えていた時に井上さんの構想を知り協力された。地元住民が一体となっている。

きらりびとの活動のひとつにもなっている「陽だまりサロン」は小学校の空き教室を利用して、町の委託で運営している。子育てママ教室ほか、子どもも高齢者も障害者も同じ場でふれあい、お互いのよい所を見つける。

それが本当の福祉だと井上さんの持論だ。

もちろん、簡単なことではない。介護保険法改正と障害者自立支援法の影響で、経営が難しい部分も多々あるそうだ。特に、障害者グループホームの運営は赤字経営に近い。それでも、共生をめざして事務局長のバックアップも得ながら運営されている。困ったときは“お互いさま”の精神。NPO法人だからできることを活かして運営されている。

しかし、厳しい現実は目の前にある。

キッズルームきらり

対象児童 1歳～小学校6年生

（登録制500円）

利用時間 AM8：30～PM4：30

朝の延長 AM7：00～

夜の延長 ～PM8時まで

利用料金 平日、土曜日 2000円

日曜、祝日 2500円

（延長平日300円 日祝400円）

ファミリーサポート

みやしろファミリーサポート認定事業者とされている。町で第1号の事業者。